

こどもとしょかん R2.2~3月あかべえ展示コーナー



ともだちのほん



タイトル

著者名

出版社

『いっぴきぐらしのジュリアン』

ジョー・トッド・スタントン || 作
いわじょう よしひと || 訳

岩崎書店

E/I

のねずみのジュリアンは、木の根元にある巣穴で、気ままないっぴきぐらしを楽しんでいました。そんなジュリアンに目をつけ、巣穴のまどから忍び込もうとしたキツネ。ところが、巣穴に頭がはまり、抜けなくなってしまいました。

『けんかのきもち』

柴田 愛子 || 文
伊藤 秀男 || 絵

ポプラ社

E/ケ

いちばんのともだちの“こうた”とけんかをした、“たい”。けりやパンチを返され、かたまでどつかれてしりもちをついてしまいました。くやくてなきながら家に帰りましたが、ないてもないても、なきたい気持ちがおさまりません。

『ないしょのおともだち』

ビバリー・ドノフリオ || 文
バーバラ・マクリントック || 絵
福本 友美子 || 訳

ほるぷ出版

E/ナ

とてもおおきな家にすむマリーと、そのすみのちいさな家にすむネズミの女の子。偶然、お互いに気付いた二人は、“ないしょのおともだち”でした。やがて、おおきくなった二人はそれぞれの家を出ていきますが…。

『ないたあかおに』

浜田 廣介 || 作
野村 たかあき || 絵

講談社

E/ナ

やさしくてすなおなあかおには、人間たちとなかよく暮らしていきたいと思っていました。けれども、なかなか信じてもらえません。がっかりしたあかおにをはげまし、手助けしてくれたのは、なかまのあおおにでした。

『なんでも おんなじ?』

コリンヌ・アヴェリス || 作
スーザン・バーレイ || 絵
前田 まゆみ || 訳

フレーベル館

E/ナ

りすのソレルとセージは、なんでもおんなじおともだち。好きなあそびやうたもおんなじだし、しっぽのもようまで！なんでもおんなじなともだちがいることを、しあわせに思っていたソレル。けれども、セージのおうちにおとまりに行って、じぶんのおうちとちがっていることに気がつきました。

『ひとりぼっち』

くすのき しげのり || 作
ふるしょう ようこ || 絵

学研プラス

E/ヒ

はなちゃんはひとりで本をよむのが、すき。じぶんのおもったことをなかなか言えず、ときどき、「ひとりぼっち」になってしまいます。「ひとりぼっち」でも大丈夫なように、「ひとりぼっち」の練習をしてみました。なんだかうまくいきません。

『ふゆのはな さいた』

安東 みきえ || 文
吉田 尚令 || 絵

アリス館

E/フ

はじめての冬を迎えた、こねずみ。ひとりぼっちがかなしくて、池になみだをぼとり。すると、顔を出した金魚にしかられてしまいました。泣いていたわけを金魚に話しているうちに、二人はともだちになりました。

『ゆうたはともだち』

きたやま ようこ || 作

あかね書房

E/ユ

シベリアンハスキーの子犬・「おれ」と、にんげんの子どもの「おまえ」。いっしょにいるけれど、ちがうところは、たくさん。でも、だいすきで、だいじなともだちなんです。

『友だちをやめた二人』

今井 福子 || 作
いつか || 絵

文研出版

F/I

七海と結衣は、一年生からの友だち。七海は結衣と親友になれたらと思っていますが、結衣が自分のことをどう思っているのか、よくわかりません。子猫を拾ったことをきっかけに、二人の関係がだんだん変わっていき…。

『走れメロス』 (「走れメロス 富獄百景」所収)

太宰 治 || 作

岩波書店

F/ダ

結婚する妹のために、都へ花嫁衣裳やお祝いのごちそうを買いにきたメロス。まちは、人を信じることができない暴君ディオニスに支配されていました。暴君に立ち向かったメロスですが、たちまち捕らえられてしまいます。はりつけにされることになったメロスが王へ願ったのは、処刑までの三日間の猶予でした。